

## 演題プログラム Program

### オーガナイズドセッション

#### [zoom] 【OS-A】 広域での作物の生育診断・収量予測：現状と課題

[内容]	
広域スケールでの作物の生育診断・収量予測は地球温暖化や気象災害が激甚化している現代において、必須の農業技術になりつつある。農業気象学会でもこれまで作物モデルの開発や改良、機械学習の利用、衛星データ等の利活用について多くの研究がなされてきた。本OSでは、今後のさらなる技術発展・社会貢献を見据え、現状での到達点と課題、今後の方向性を議論したい。	
OSA01	国レベル統計収量と比較するために全球作物モデルが出力したグリッド別の水稻収量を空間集計する際に必要な留意点 飯泉仁之直・滝本貴弘(農研機構)・眞崎良光(茨城大学)・増富祐司(国立環境研究所)
OSA02	広域での作物収量予測のための個葉レベルでのオゾン影響のモデリング 河田直弥(茨城大)・黄瀬佳之(山梨大)・青野光子(国環研)・赤路康朗(国環研)・小林和彦(茨城大)・増富祐司(国)
OSA03	土壌凍結深制御手法の開発、拡張、普及の過程と意義 広田知良(九大(前農研機構))・小南靖弘・下田星児・金谷真希・村上貴一・吉村元博・岩田幸良・柳井洋介(農研機構)・中辻敏朗・小野寺政行・奥村理・五十嵐俊成・須田達也・石倉究(道総研農業研究本部)・庄子隆之・畠山重文・伊藤勇也(JAきたみらい)・前塚研二・小川ひかり(十勝農協連)・船戸知樹(オホーツク農協連)
OSA04	長期予測情報の利活用促進の取り組みと活用の広がり 萱場互起(北海道大)
OSA05	6ヶ月アンサンブル数値予報モデルGPVの耕地における月降水量予報精度評価 増富祐司(国立環境研究所)・飯泉仁之直(農研機構)・大吉慶(JAXA)・萱場互起(気象庁)・金元植(農研機構)・滝本貴弘(農研機構)・眞崎良光(茨大農)

#### [オンデマンド] 【OS-B】 日本農業気象学会北海道支部研究発表会

[内容]	
日本農業気象学会北海道支部では、2021年全国大会の場をお借りして(2020年)研究発表会をオンライン・オンデマンド開催いたします。全国大会参加者は、どなたでも参加できますので、ぜひご視聴ください。	
OSB01	「ゆめぴりか」のアミロース含有率予測 根本学(農研機構北農研)・五十嵐俊成(道総研北見農試)・長田亨(道総研中央農試)・吉田慎一(ホクレン農業総研)
OSB02	気候変動時における雪質(積雪堆積環境)の予測 井上 聡・小南靖弘(農研機構)
OSB03	2014年8月29~31日の薬師岳、太郎山、称名滝の気象変化 真木太一(九大名誉教授・学術会議連携会員・北大農研員)
OSB04	融雪材による早期融雪が秋まき小麦収量に与える影響 下田星児・濱寄孝弘(農研機構)
OSB05	シミュレーションを用いた風害防止のための耕起法策定に関する研究 岡野智之・岡田啓嗣・鮫島良次・岡本渚(北海道大)
OSB06	マルチサイトウェザージェネレーターによる模擬的気象データの生成 福元雄也・岡田啓嗣・鮫島良次(北大院農)
OSB07	簡易型プロセスモデルと統計モデルによるてん菜の収量評価 渋谷裕介・鮫島良次・岡田啓嗣(北海道大)
OSB08	2018年の北海道において水稻の低作況を引き起こした気象要因 小坂真優・鮫島良次・岡田啓嗣(北海道大)
OSB09	1980年代以降の北海道内の降雪状況の変化 小南靖弘・井上 聡(農研機構)

#### [Youtube] 【2021年日本農業気象学会全国大会 若手研究者の会】 研究者・技術者としての働き方～大学、研究所、民間企業の仕事～

[内容]	
学生が理系キャリア選択を避ける原因として、研究者・技術者として職を得ることへの不安や将来像の不明瞭さが挙げられます。とくに民間企業の農業気象研究者・技術者とのつながりを持つ若手は少なく、「この分野で働いていく姿がよくわからない」というのが正直なところだと思います。本セミナーの目的はアカデミアに限らない「研究者・技術者」としての多様なキャリアパスを考える機会に設けることです。民間企業を含む複数のポストでの勤務経験のあるふたりのゲストスピーカーを迎え、様々な視点から研究者・技術者としての働き方についてご講演いただきます。	
URL : <a href="https://agrmet.jp/groups/young/">https://agrmet.jp/groups/young/</a> (日本農業気象学会若手研究者の会ホームページに詳細を記載)	
研究者・技術者としての働き方	狩野 敦(株式会社ダブルエム)
国立研究開発法人での研究業務	飯泉 仁之直(農研機構)